

とよなか

(部内資料)

教え子を再び戦場に送るな！ 2016年8月24日発行NO. 568

子ども達の豊かな成長・発達の力を合わせるようにしましょう！

深刻！ 恒常的な「教育に穴」＝教員の穴あき

豊中市教育委員会は責任をもて！

- 学級担任の代替が決まらない。
- 産休直前でも、代替講師が決まらない
- 「教科担当事業」、講師配置決まらず校長が代わりに授業

「努力しているが、講師登録者がいない」(市教委)

また、市独自で高学年教科担任事業をすすめてい

市独自小学校教科担任事業も制度破綻？

また今年も「講師がいな

い」事態が生まれていま

す。事態は深刻です。こ

れまでは2学期以降に講

師がいけないということが

ありましたが、昨年ぐら

いからは年度はじめから

「講師不足」講師がい

ない事態となっています。

今もって、代替の講

師が配置されていない学

校が多数あります。

教育委員会が「学校で

講師を見つけてもらえば、

早く配置できます。」と

いうように、教育委員会

に講師配置を委ねてけれ

ば、何か月もの順番待ち

の事態です。

昨年度、妊娠したある

教員はなかなか後任の産

休代替講師が決まらず、

産休入り直前に、自ら知

り合いにお願いをしまし

た。このように、安心し

て妊娠・出産ができてい

ようなことになっていま

す。

また給与が低くおさえ

られていきます。中間層の

年齢層になると月数万円

ものちがいがあるとも言

われます。実際に現職で

近隣他府県を受け直して

転勤していくということ

近畿各府県の教員採用

の受験者人数を見ると京

都・兵庫・奈良などは近

年、人数が増えています。

しかし、大阪府の受験人

数は減っています。

これは、今、大阪で進

行する教育に対して、学

生等が心配・不安をいだ

いていることが考えられ

ています。

大阪府を敬遠する学生・出ていく若手現職

ます。しかし、希望した

学校に一学期中、講師が

配置されず、代わりに学

校長が授業をしていると

ころもあります。

根本的解決のために

○豊能地区教員採用で、現在必要な教員

定数に見合った人数を採用すること

○府下他地区・他府県からの豊中への転

勤希望者を積極的に採用すること

人事権移譲で採用人数を抑制！

も生まれています。

	H25 2013年度	H26 2014年度	H27 2015年度	H28 2016年度	H29 2017年度
小学校	約100	約120	約80	約80	約100
中学校	約90	約50	約40	約30	約35

豊能地区独自採用

豊能地区教員選考で平

成29年度は小学校で約1

00名・中学校約35名の

採用予定です。

しかし、左表のように

独自採用前と比べると採

用人数が減少しています。

以前、人事協議会の担

当者は「採用しすぎて、将来過員になったらどうするんですか。」と語っています。

大阪府採用で任命権者が府の時は「過員」(※教員が定員に対して、多くなる状態。反対が「欠員」)になれば、府下の他市町村と調整して人事の異動がありました。

しかし、豊能地区で独自に採用し、任命権者が豊中市になった今では、「過員」になれば、豊能地区内で「過員」を解決しなくてはいけなくなっているのです。

それが、現在の慢性的講師不足を生み出している一つだといわざるを得ません。

学校統廃合計画も教員採用を抑制

今、市が構想する庄内地域の学校統廃合計画。小中学校9校が南・北2校の小中一貫校を予定しています。音楽専科を考えば9名が複数配置しても4名(各校2名配置として)でいいことにな

ります。必要な教職員数は減です。豊中市の計画では他の地域でも小中一貫校を考えています。

豊中市は、こうした「将来的」なことも考慮して、採用を抑制し、年度初めから大量の講師を毎年のように雇用しているといわざるを得ません。

【解決のために】

豊中の「教員の穴あき」の慢性的状況を根本的解決のために、豊中市教委に次のことを強く求めます。

○豊能地区教員採用で、現在必要な教員定数に見合った人数を採用すること

○府下他地区・他府県からの豊中への転勤希望者を積極的に採用すること

通勤や家庭の事情等で豊能地域・豊中への転勤を希望する教職員が多数います。こうした現職の経験をもった教職員を積極的に採用することで、「欠員」状況を少しでも緩和させることができるはず。

9月9日(金)

有料試写会

ドーンセンター

①10時②16時半③19時

※制作協力券

組合事務所まで

お問合せを

¥1000

場面緘黙症の心の悲しみを抱えた少女、貧困から様々な問題を引き起こす少年の絶望と苦しみなど子どもたちの困難に寄り添い子どもとともに生き、子どもへの愛情を貫いた教師の感動の物語。

教師を演じるのは、

TVドラマ「科捜研の女」シリーズで活躍中の沢口靖子さん。

映画

校庭に東風吹いて

主演 沢口靖子さん



「21世紀にふさわしい教育を」
「部落問題学習」を考えるQ&A
大阪教育文化センター「部落問題解決と教育」研究会

大阪教育文化センターが発行した冊子の内容を順次紹介します。

Q2「部落問題」の解決とは何ですか。

A2 部落問題の解決とは出身を意識しないこと。

今、「地区」指定もなくなり、分けへだてするものはいっさいありません。ふだんの暮らしをはじめ、結婚や就職においても先祖が江戸時代のどんな身分だったか、門地(家柄・血筋)などを意識している人はいません。先祖のことを話されても「そうだったんですか」で終わる話です。「私ら、おじいちゃんおばあちゃんまでは知ってるけど、その先は知らん」という人が多いのではないのでしょうか。友人や知人、家族の出身をまったく気にしない時代になっています。

出自なんか意識しない、「そんなこと関係ないわ」、「誰もが人間として尊重されるのが大事やろ」ということです。

今日においては、国籍・民族・性別等にかかわらず、誰もが尊重されなければならぬことは常識となっています。

部落問題の解決も同じではないでしょうか。まだ偏見や誤解を持つ人はいます。しかし社会としてそれが受け入れられることはありません。まわりの人がたしなめる社会になっています。それでも偏見や差別を押し通す人間は、まともな人間として相手にされません。

21世紀の日本では社会問題としての部落問題は基本的に解決しています。